

04 町内にも女性の活躍を (女性)

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、田島芽瑠がお届けします。

10 世界経済フォーラムが2021年に発表した男女格差を測るジェンダーギャップ指数で、日本は156カ国中、120位でした。これは、女性の政治家や管理職などが少ないことが反映された結果です。同様のことは身近な場所でも見られます。校区単位でまちづくりを行う福岡市の「自治協議会」の会長を見ると、男性が9割以上を占めています。圧倒的に女性が少ない中、10年前から小田部校区の自治協議会会長を務める、松永マツエさんにお話を伺いました。

15 【松永マツエさん役】昔は町内会長といえば男性ばかり。およそ30年前、私が初めて町内会長になった頃は、「女のくせに」と言われたこともありました。小田部校区の会長になった時も、早良区の他の24校区はみんな男性で、女性はたった一人。ビクビクしながら最初の会議に行った時、「小田部にや男はおらんのか？」と話しているのを聞いて、女性がなつちやいけないのか、と反発する気持ちもありました。

(ナレーター) 松永さんは、今では早良区の代表も務めています。

25 ますが、福岡市7区の中、区の代表を務める女性の会長は一人だけです。

30 もっと地域にも女性の活躍の場がほしい、と思った松永さんは、まずは環境から変えようと、当たり前のように夜に行っていた会議をやめました。夜だと夕食も気になるし、子どもを置いて出かけづらく、女性が役職を引き受けにくい、と聞いたからです。

35 また、毎月第4日曜を「みんなで校区活動に参加する日」と決め、いくつかの地域活動をこの日に行い、自分の都合のいい時間に少しでも関わってもらえるよう呼びかけました。たとえば、朝は集まれる人で公園の掃除をしたり、午後は高齢者の居場所づくりとして開くカフェの手伝いをしたり、少年野球の日にはお父さんたちが応援に来たりなど、自分ができるような時に関わってもらおうようにしたのです。

40 このような取り組みの結果、地域活動に参加する人が増えてきました。今では校区内の女性の町内会長も5人になりました。

45 「会長は男性が務める」という固定観念にとらわれることなく、みんなが協力しあい、支えあえる社会を目指していきたいですね。